

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 3 年 2 月 24 日

事業所名 山形地域福祉事業所陽だまりクラブ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2 職員の配置数は適切である	○		人員配置基準よりも多くの職員配置に加えて、学生アルバイトも配置しています。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			必要に応じて対応をしていきます。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		毎朝の朝礼、振り返り、定期的な全体ミーティング、部門間ミーティングにて、課題や、気づきを共有し、対応しています。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		何かあれば保護者の皆さまにアンケートを実施し、保護者の方の意見を、事業所づくりに取り入れ、一緒になって良い事業所づくりに取り組んでいます。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		法人のホームページ・保護者一人一人に配布・事業所掲示板に掲載しています。	事業所ホームページにも完成し次第、載せていきます。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		第3者委員として地域の方が入り、年2回虐待と苦情の委員会を開催しています。	もっと地域の人が事業所の中に入り、より開かれた事業所づくりをしていきたいと考えています。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		研修後は、会議等で報告をしてもらい、研修の内容を記録として残してもらっています。必要に応じて内部研修を開き、理解を深めて実践に生かしています。	コロナ禍で外部の研修が少ない中でも、事業所で工夫をして内部研修などを行い、質の向上に努めていきたいです。
適切な支援	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		アセスメント後、ケース会議を行い、様々な視点から検討を行い、計画を作成しています。必要に応じてモニタリングを行い、計画の見直しも進めています。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		事業所として統一されたアセスメント様式を活用しています。	必要やニーズに応じて変えていく事も考えています。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		ミーティングや会議などで、検討や共有を行い、チームで統一した関わり行っています。	必要に応じてミーティングを開催し、対応を考えていきます。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		ミーティングや会議などで、検討や共有を行っています。	必要に応じてミーティングを開催し、対応を考えていきます。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		部屋数が多い事を生かし、年齢や特性に合わせてながら、部屋を分け、職員間で検討を進めています。	体制や環境の問題などから、対応しきれいな部分もあるため、少しずつ改善をしていきたいです。

取 組 の 提 供	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		児童が来所する前に、職員間でミーティングを行い、確認をし、役割分担を明確にしています。		
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		状況に応じて次の日になる事もありますが、必ず振り返りを行い、記録として残し、職員間で共有をしています。		
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		何かあれば記録として残すことは、徹底をし、それをもとに対応の検討、問題解決に努めています。		
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		半年に一回必ず行い、その他にも必要に応じてモニタリングを行い、見直しを行っています。		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせで支援を行っている	○		各職員にガイドラインを渡し確認をして頂いたり、ミーティング等で定期的な読み合わせも行っています。		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児発管、管理者が中心となって参画をしています。		
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○		児童に変化などがあれば、お迎え時に、先生と情報共有などを行い、支援に役立っています。送迎時の連絡調整は、状況に応じて行い、ミスがないように心掛けています。学校を含めた担当者会議や、学校イベント参加も増えてきています。	今後も先生や学校と情報共有の機会を少しずつ増やしていきながら、連携を図っていきたいと感じています。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている					医療的ケア児は利用をしていません。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○			必要に応じて情報共有をしていきます。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○			必要に応じて情報共有をしていきます。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		毎年講師を派遣して頂き、研修や助言を頂いておりますが、コロナの影響もあり、連携ができておりません。	コロナ禍による影響が多きいですが、形を変えたり、工夫をしながら連携を図り、質の高い支援に繋げていければと感じています。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		昨年であれば、近隣の高校生とのつながりありましたが、コロナの影響で難しい状況となっています。	コロナが落ち着き次第、交流や活動の機会を作りたいと考えています。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	○			コロナ禍によってほとんどが中止となり難しい状況ではありますが、開催となった協議会については参加をし、情報の共有をさせて頂いています。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			お迎え時や、モニタリング等でお話しをさせて頂いています。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		コロナ禍でほとんど実施できていないのが現状ですが、陽だまりカフェとして交流の場を年に数回開催しています。	今後は、感染対策をしながら陽だまりカフェの開催頻度増やしていけたらと考えています。

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約の際には、時間をかけ説明を行っている。内容が変更になった際には、再度お渡しをし、説明をさせて頂いています。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			お迎えや、モニタリング時にお話をしています。交流会や陽だまりカフェを活用しながら対応をしていきたいと考えています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	コロナ禍によって開催が難しい状態となったために、実施ができておりません。	コロナの状況を見つつ、形を変えてできないことがないか、アイデアを出し合い、対応をしていきたいと考えています。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		朝礼やミーティング等で共有をし、再発防止策を考え対応をしています。	第三者委員を交えた苦情防止委員会の内容等を保護者の方に配布をし情報や対応を周知していけばと考えています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		通信やお知らせを活用して発信を行っています。	ホームページが完成後は、SNS等も活用をしながら対応をしていきたいと考えています。
	35	個人情報に十分注意している	○		掲示物等には、本名が掲示しないように、名前だけや、名前を伏せた形で掲示を行っています。また個人情報等が記載してある書類については、鍵付きの書庫に保管の上、対応をしています。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		視覚による構造化に取り組んでいます。保護者の方に対しては、口頭だけではなく、書面などもお渡しをし、目から入るように心がけています。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	コロナ禍で思うようにはできていませんが、感染対策をしながら、地域のサロン活動、子ども食堂等を行っています。	コロナ禍ですが、感染対策をし、形を変えながら対応をしていきたいと考えています。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		職員間で検討や共有をし必要に応じて変更を行っています。保護者の方に対しても、変更があるたびに書面と口頭にてお伝えをし、ご理解を頂いています。	今後も何か変更などがあれば保護者の皆さまにご理解とご協力を頂きながら進めていきたいと考えています。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		職員のための訓練を2回、児童が参加する訓練を1回。計3回行っています。	災害時の対応についての共有。備えについても再度職員間、地域の方と検討をし協力をしながら進めていきたいと考えています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		年2回地域の第三者委員を交えて、虐待防止委員会を開催しています。事業所内でも、年1回以上必要に応じて虐待内部研修を行っています。	もっと地域の人が事業所の中に入り、より開かれた事業所づくりをしていきたいと考えています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			今現在、身体拘束が必要な児童はおりません。状況に応じて、保護者の方に相談をしながら、やむを得ずの場合の対応を考えていきたいと考えています。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			必要に応じて指示書を頂いて進めていきます。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			インシデント、アクシデントのファイルを作成し、共有をしています。再発防止についてもその都度検討をし対応しています。